

検討会議におけるこれまでの検討内容

1 大崎地区の概要

大崎地区は、平成の大合併により 1 市 4 町（大崎市・色麻町・加美町・涌谷町・美里町）で構成され、北西部から西部にかけて山形・秋田両県との境をなす奥羽山脈が連なり、東に向かって次第に傾斜しながら平坦地が広がっている。

地形は、①自然豊かなリゾート地帯の葉菜地区及び鳴子温泉郷をはじめとする北西部の山間地帯、②肉用牛及び採卵鶏などの畜産が盛んな西部の丘陵地帯、③「ひとめぼれ」「ササニシキ」など良質米を産する「大崎耕土」が広がる中央部・東部の平坦地帯の 3 形状に大別される。交通網は、高速交通ネットワークとして東北新幹線（古川駅）と東北自動車道（古川 IC，長者原スマート IC，三本木スマート IC）があり，その他一般国道や鉄道が交差する交通の要衝となっている。総面積は 1,523.82 km²（県全体の 20.9%）である。人口は約 206 千人（平成 27 年国勢調査）で，宮城県全体の 8.8%（仙台地区に次いで 2 番目）を占めるが，年々減少傾向にある。

このたびの「大崎地区における高校の在り方検討会議」においては，遠田郡（涌谷町・美里町）及び大崎市域のうち旧志田郡（旧松山町・旧三本木町・旧鹿島台町）・旧遠田郡（旧田尻町）を東部ブロックと位置づけ，ブロック内の高校の在り方について検討を行うもの。

<参考：宮城県北部地方振興事務所 大崎地方振興指針>

2 大崎地区（東部ブロック）における高校教育の状況

（1）生徒数の推移

本県の中学校卒業生数は，次期将来構想期間中の平成 31 年から平成 40 年までの間に 1,700 人程度（約 8%）減少する見込みであり，今後も学校の再編や学級減を行い，高校入学定員の適正化を図っていく必要がある。

大崎地区においては，250 人程度（約 15%）減少する見込みとなっている。【図 1】

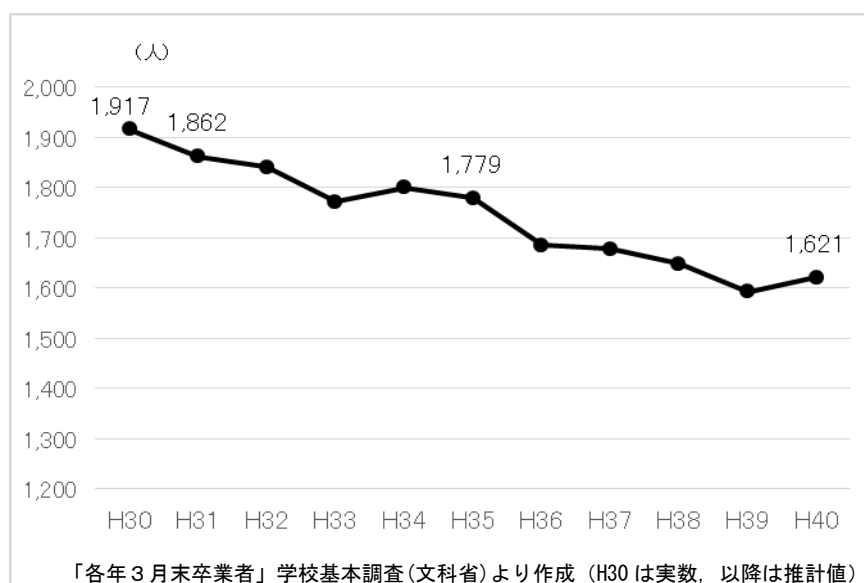


図 1 大崎地区内中学校卒業生数の推移

(2) 各高校の学科等

大崎地区(東部ブロック)には、全日制高校として松山高校、鹿島台商業高校、涌谷高校、南郷高校、小牛田農林高校の5校、定時制高校として田尻さくら高校が設置されている。

全日制5校の学科構成をみると、普通科が3校6学級(定員240人)、総合学科が1校3学級(定員120人)、専門学科として農業に関する学科が2校3学級(定員120人)、商業に関する学科が1校3学級(定員120人)、家庭に関する学科が1校1学級(定員40人)となっている。【表1, 2】

全日制5校の平成30年度の在籍者の状況は、【表2】のとおりであり、定員に対する割合は、6割が1校、7割が2校となっている。また、在籍者のうち大崎地区出身者の割合は、鹿島台商業高校以外では、6割以上となっている。【表3】

表1 大崎地区の全日制高校の状況(平成30年度)

学校数	11校
学校規模(H30)	4学級以上:5校 3学級以下:6校 平均:3.9学級
学科構成	・普通科が約6割 ・その他は、総合学科と農業、工業、商業、家庭系の専門学科
進学状況	地区内中学校から地区内全日制高校への進学者:約7割

表2 大崎地区(東部ブロック)の全日制高校の状況(平成30年度)

	学科	1学年		在籍者 (3学年)
		学級数	定員	
松山高校	普通科	1	40	68
	家政科	1	40	102
	合計	2	80	170
鹿島台商業高校	商業科	3	120	256
涌谷高校	普通科	4	160	393
南郷高校	普通科	1	40	65
	産業技術科	1	40	92
	合計	2	80	157
小牛田農林高校	農業技術科・農業科学コース	1	40	119
	農業技術科・農業土木コース	1	40	118
	総合学科	3	120	355
	合計	5	200	592

注) 学校要覧(H30)より作成

表3 在籍生徒の出身地区（平成30年度）

（単位：人、％）

	大崎地区		内訳						他地区	
			東部		旧古川市		西部			
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
松山高校	124	72.9	79	46.5	45	26.5	0	-	46	27.1
鹿島台商業高校	84	32.8	76	29.7	7	2.7	1	0.4	172	67.2
涌谷高校	315	80.2	286	72.8	29	7.4	0	-	78	19.8
南郷高校	95	60.5	92	58.6	3	1.9	0	-	62	39.5
小牛田農林高校	510	86.1	280	47.3	175	29.6	55	9.3	82	13.9

注）学校要覧(H30)より作成

（3）各高校の状況

第1回会議発言より

① 松山高校

- ・卒業後に社会に出て通用することを目標に、学び直しの授業やコミュニケーション能力を高めるような取組を行っている。

② 鹿島台商業高校

- ・商業の学びから経済社会の発展を担う人材の育成を目指している。
- ・7割が仙塩地区からの入学者である。

③ 涌谷高校

- ・生徒の進路希望や町の要望から3年生の選択科目に文系・理系のほか、看護医療系、福祉系のコースを設け、町施設の協力を得て実習も充実させる予定である。

④ 南郷高校

- ・「しっかりと話せる、考えて話せる」人材の育成の観点から、アクティブラーニングを実践している。

⑤ 小牛田農林高校

- ・農業技術科では、非農家の生徒も農業を学びたいという動機で入学している。

学校要覧（平成30年度版）より

	創立・開校	校地面積	校舎建築年
松山高校	昭和55年 (1980年)	2.58ha	平成2年 (築28年)
鹿島台商業高校	昭和25年 (1950年)	8.26ha	昭和57年 (築36年)
涌谷高校	大正8年 (1919年)	5.58ha	昭和48年 平成16年大規模改修
南郷高校	昭和6年 (1931年)	11.17ha	昭和55年 (築38年)
小牛田農林高校	明治21年 (1888年)	108.09ha (演習林93.97ha)	平成11年 (築19年)

(4) 再編状況

新県立高校将来構想（平成 22 年 3 月策定）期間中の本県での公立高校（全日制）の再編状況は【表 4】のとおりであるが、大崎地区は、全県で唯一再編を行っていない状況にある。

表 4 公立高校の再編状況

地区	年度	再編対象	再編後
南部地区	H22	白石高校（普 4） 白石女子高校（普 4， 看 1）	白石高校（普 6， 看 1）
中部地区	H21	仙台商業高校（商 6） 仙台女子商業高校（商 5）	仙台商業高校（商 8） ※仙台青陵中等教育学校
	H22	塩釜高校（普 3， 商 2） 塩釜女子高校（普 5）	塩釜高校（普 8， 商 2）
大崎地区			
栗原地区	H21	鶯沢工業高校（工 2）	岩ヶ崎高校（鶯沢校舎）（工 1）
	H28	岩ヶ崎高校（鶯沢校舎）（工 1）	募集停止
登米地区	H27	上沼高校（普 1， 農 1） 米山高校（普 1， 農 1） 米谷工業高校（工 3） 登米高校（普 3， 商 1）	登米総合産業高校 （農 1， 工 3， 商 1， 福 1） 登米高校（普 3）
石巻地区	H24	女川高校（普 2）	募集停止 ※女川高等学園（特別支援学校）
	H27	石巻市立女子高校（普 4） 石巻市立女子商業高校（商 2）	桜坂高校（普 5）
気仙沼・ 本吉地区	H30	気仙沼高校（普 5） 気仙沼西高校（普 2）	気仙沼高校（普 6）

1（ ）は学科と学級数

2 斜体字は市立学校

3 第 3 回会議までの総括

- 各高校の置かれている状況等について共通理解を得た上で、今後も少子化が進行する中で、部活動などの課外活動も含めた教育環境の充実のためには、再編はやむを得ない。
- 再編に当たっては、社会的状況や実現可能性等を考慮しつつ、地域の要請や学校の配置バランス、求められる学び（新たな学科やコース等）などについて整理する必要がある。
- 地区内の既存の専門学科の学びの継続性は重要である。

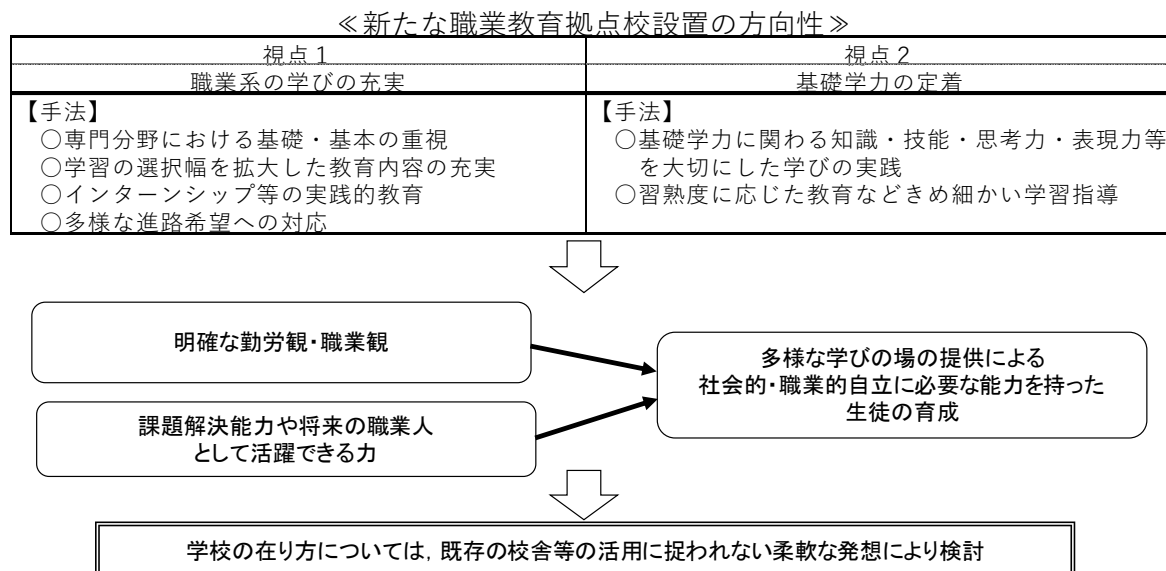
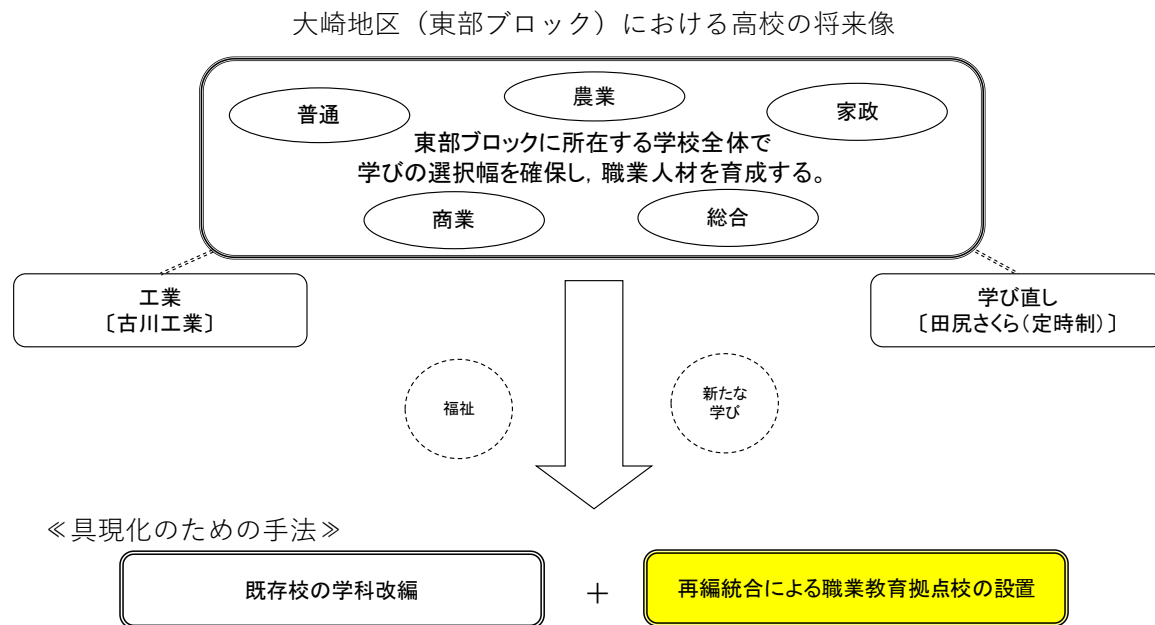
以上の点を踏まえ、第 3 回会議（平成 30 年 12 月 26 日開催）では、「大崎地区（東部ブロック）における高校の将来像」として、「既存校の学科改編」と「再編統合による職業教育拠点校の設置」を組み合わせることを提示した。

新たな職業教育拠点校設置の方向性としては、「視点 1：職業系の学びの充実」、「視点 2：基礎学力の定着」を掲げ、多様な学びの場の提供による社会的・職業的自立に必要な能力を

持った生徒を育成することとした。

なお、新たな職業教育拠点校の在り方として、既存の校舎等の活用に捉われない柔軟な発想により検討することも併せて提示した。

<第3回大崎地区における高校の在り方検討会議 資料2>



上記の将来像の提示を踏まえ、一部の出席者から小規模校の存続意義（これまでの取組成果）や再編の必要性に関する意見等が出されたが、大勢としては、東部ブロックの再編はやむを得ないとの意見であり、新たな職業教育拠点校設置の方向性については、概ね合意が図

られたところである。また、今後の検討に当たっては、学ぶ側（生徒側）の発想が求められることや、再編に向けたスケジュールを念頭に置いた検討などについて留意すべきとの意見があった。

第4回会議においては、具体的な再編案について提示することとなった。